

◆司会

それではただいまから市長定例記者会見を始めさせていただきます。市長、よろしくお願いいたします。

◆市長

はい。よろしくお願いいたします。今日は2月の最終日ですね。少し春めいてきた感じなのかなと思います。今日の話題に入る前に2つお知らせをしたいと思います。まず1点目は「まちは劇場 TRY '22」の取組であります。記者の皆さんには、お手元に配付をさせていただいておりますけれども、この事業はコロナ禍で自粛傾向にある各種イベントの開催回復を支援することを目的とした奨励金の支給事業であります。「まちは劇場」と掛け合わせていきます。春、夏、秋、冬、季節ごとにエントリーを受け付け、イベント規模や取組内容に応じて最大70万円の奨励金を交付すると同時に、四季折々のイベントや地域特有の伝統文化行事などをパッケージ化することで、5大構想の1つである「まちは劇場」の推進にも資していこうという取組であります。本日より4月から5月までのイベントや行事などを募集しますので、ぜひ、ご応募をいただきたいと呼び掛けさせていただきます。

2つ目は「432(しみず)スペシャルウィーク」のことであります。令和4年3月2日、清水区の職員が気付いてくださったんですけれども、令和4年3月2日は4、3、2の語呂合わせでシミズというふうにも読めます。ですので、清水区役所の若手職員22名を中心とした有志によるプロジェクトチームが清水区の魅力の発信のために企画を立案してくれて、2月26日から3月6日までを「432(しみず)スペシャルウィーク」と題してさまざまな事業を展開していきます。その目玉事業が本日举行されます、午後1時から清水庁舎で清水区広報キャラクターのシズラがデザインされたマンホールのふたのお披露目式を行います。設置場所は現在調整中ですが、3月4日までは清水庁舎の1階に展示します。また、3月2日からはシズラのLINEのスタンプも発売となります。清水の方言を用いたものなど、日常生活で使える幅広いスタンプを製作しましたので、ぜひ多くの市民の皆様にご利用いただきたいと思います。

いずれにしても、こういうイベントの開催回復を通じて地域経済の活性化につなげていけたらいいな、というふうに思っておりますので、ぜひ、よろしくお願いをいたします。それでは、今日の話題に移ります。第4次静岡市総合計画骨子案のパブリックコメント実施についてです。先日の施政方針の中でもお話しをしてありますけれども、第4次静岡市総合計画、4次総の骨子案について、明日、3月1日からパブリックコメントをスタートいたします。このパブコメを実施するに当たり、計画の骨子案について、改めて会見の場で皆さんに説明したいと思います。スライドのほうをお願いいたします。

本市の最上位計画である3次総は令和4年度で終了となります。このため、次期計画となる令和5年度からの4次総の策定に向けて、今年度から企画局を中心に検討を進め、計画の骨子案を作成しました。記者の皆さんには、パブコメ用資料も本日も配りをしておりますので、併せてご覧いただきたいと思っております。

さて、4次総の策定に先立ち、来年度で終了する3次総を振り返ってみますと、PDCAを回して検証してみるということですが、平成27年の計画策定以降この7年間、紆余曲折を経ながら、様々な取り組みを進めてきたと実感しております。特に5大構想を中心として、地域経済を活性化させるための都心づくりと市民の皆さんの暮らしを充実させるための仕組みづくりに力を入れて取り組んでまいりました。そのような中、2年前からは残念ながら新型コロナという世界的なパンデミックに見舞われ、本市も大きな影響を受けましたが、より、時代に即した事業として充実を図るため、職員と一丸となって取り組んできました。新年度、3次総の総仕上げとして全力で取り組みを進め、令和5年度からの4次総につなげていきたいと、こういうふうに強く思っています。

次のスライドをお願いします。4次総のポイントは3次総の継承と進化であります。まず、まちづくりの目標については3次総を継承し、「世界に輝く静岡の実現」という言葉を掲げていきます。また、3次総で最重要政策として進めてきた5大構想を進化させ、これからの時代に求められる要素を組み込み、5プラス2、仮称7つの柱として取り組んでいきたいと思っております。

次のスライドをお願いします。そこでもう一度整理をしますと、こういうことになります。まちづくりの目標である「世界に輝く静岡の実現」を達成するための都市像として、まず、都市全体。まちを一つと見立てた大きな視点からは、静岡市が擁する地域資源を磨き、輝かせ、世界から注目をされ人々が集まるまち、これは世界中から人が集まる静岡市を目指していこうという視点であります。

もう1つは市民一人ひとりの視点であります。個々の市民、静岡市に暮らす市民一人ひとりが輝いて、自分らしい人生を謳歌できるまちですね。市民一人ひとりが、やっぱり輝いてもらわなければいけないわけですね。例えばSDGsの目標、ジェンダー・イクオリティというのがある。女性だって、やはりSDGsの推進の中で、もっともっと働きやすい環境を整えて、そして輝いてもらう、そんな静岡市を目指していきたい、そのためには、やっぱり市民一人ひとりに対しての視点も忘れてはいけないということが、この2つが両立して初めて、「世界に輝く静岡」が実現できるんだという定義を示させていただきます。よく、『世界に輝く静岡』とは何？と言われるので、こういうことだということを説明、報道していただければ大変ありがたいなというふうに思います。

次のスライドをお願いします。時代の潮流を踏まえなければなりません。やっぱり3次総を作った時とはずいぶん違ってくるわけですね。例えば新型コロナ、自然災害、さらに

SDGs、デジタル・トランスフォーメーション、脱炭素など、これからの時代に求められている視点を取り入れた取組として、この2つの政策を加えていきます。まず1つ目は本市の市域約8割を占める中山間地域、「オクシズ」地域と私たちはネーミングしているわけですが、ここを持続可能な住み続けられる地域にしていくための、「森林文化の地域づくり」であります。もう1つは、新型コロナや地球温暖化に伴って激甚化する自然災害などをはじめ、市民生活を取り巻く危機とか不安を取り除き、市民の皆さんの暮らしを充実させていくための、「安全・安心のまちの推進」、これは5プラス2の2として付け加えるということでもあります。

次のスライドをお願いします。そこで4次総では3次総から継承された5大構想、それに加えて森林文化の地域づくり、安全・安心のまちの推進の2つを加えた7つを、仮称ではありますが、7つの柱として進化させ取り組み、世界に輝く静岡の実現を目指してまいります。

次のスライドをお願いします。さて、それではこれから、あと1年間の4次総策定に向けた主な手続きであります。明日から、まず、この骨子案についてのパブリックコメントを実施します。骨格は今年1年、行政で企画局中心に設定させていただきました、たたき台であります。骨格はこのとおりなんですけれども、まだ中は柔らかなままであります。いろんな市民の皆さんの意見を聞いて、ここを充実させていきたいなというふうに思っています。反映させていきたいなというふうに思っております。ですので、パブリックコメントでいただいた意見などを踏まえて新年度、計画をさらに練り上げていき、そして今年の8月には2回目のパブリックコメントも実施する予定であります。そして、今年11月の市議会の定例会に、4次総の基本構想と基本計画を策定するための議案を提出していく予定です。

次のスライドをお願いします。あすから3月31日まで実施するパブリックコメントでは、ぜひ多くのご意見、ご提案をお寄せいただきたいと、重ねて呼び掛けをさせていただきます。骨子案の内容については各区役所や生涯学習施設、図書館、または市のホームページなどでご覧いただけます。なお、本日以降、市の公式LINEやTwitterなどを活用して、幅広い年代の市民の皆さんへパブコメやりますよと、静岡、オール静岡、チーム静岡でこれを作っていくという思いを伝えていくために、幅広い年代の市民の皆さんに周知を図っていきたく思います。4次総は静岡市のまちづくりを市民の皆さんと一緒に考えていくための大切な計画ですので、報道機関の皆さんにおかれましても、周知に積極的なご協力をお願いいたします。私からは以上です。

◆司会

それではただいまの4次総の骨子案のパブリックコメントの実施について皆さまからご質問をお受けしたいと思っております。いかがでしょうか。NHKさんをお願いします。

◆NHK

NHKです。5大構想の1つということで、海洋文化の拠点づくりについて、この会見で度々伺っていますが、市長がどれぐらい市民の意見を反映するおつもりがあるかという観点からも伺います。「海洋・地球総合ミュージアム」について、先日私どもの番組でかなり詳しく特集しましたところ、視聴者からの反応は、「なかなか、わくわくどきどき楽しみです」という意見はほぼというか、なくてですね。「169億円もこんな箱物に使うのはいかがなものか」と、「いまだきこういう時代じゃないだろう」と、「東海大の水族館を支援すればいいじゃないか」という意見、やはり報道すればするほど、そういう声が強い状況があります。改めて、どうして今、これをやらなきゃいけないのか、来年以降の市政運営に責任を持てるかどうか分からない市長が、どうしてこれを推進されるのかお答えいただけますか。

◆市長

その報道に私も接しましたけども、今、点ではなくてこの7年間、この海洋文化拠点づくりについて、どのような意味を公民連携して取り組んできたのかということも、ぜひ市民の皆さんにお伝えをしていただきたいなと私からお願いをいたします。やはり世界に輝く静岡ということですので、世界水準の海洋文化施設を造っていこうという志の下で、このプロジェクトは推進してきたわけです。ですから、経済界の皆さんともその目標を共有するという取組もしましたし、また、世界的に名高い我が国最高水準のJAMSTEC、海洋開発機構の皆さん、あるいは、ここが創業地の東海大学海洋学部の学長をはじめ教授陣の皆さん、そういう方々と、世界から研究者が集まれるような、そんな施設にしていこうじゃないかというような志を共有して始めた事業であります。そのために、やはりそのビジョンを共有するためには現実にそういう拠点を見に行く必要があるよね、ということで、アメリカ、カリフォルニア州のモンレーまで見て、こういうふうになったらいいねと、もし、これらを整備したら、彼らにも、我々はアピールして、何かいろんな協定ができればいいねというふうに夢を膨らめていったわけがあります。残念ながらコロナ禍が、その後、当たってしまいましたけれども、これ、国立施設で、もし建設したら、もっともっと莫大な費用がかけられるものになろうかと思えます。でも、私たちは市の財源の中で、できるだけ民間の皆さんにも協力してもらわなきゃいけないということで、ぎりぎりで、このぐらいの規模になったということでもあります。今、雑ぱくに申し上げましたけれども、そういう流れの中で、私は進めていきたいということ、ぜひ、お伝えいただければなというふうに思います。

◆NHK

教育研究施設としての意義は、それは全く否定しませんけれども、一方で集客施設だと、どっちなんだという疑問が非常に大きいんですね。現に入館者数をはじき出す上で参考

にされている男鹿市の水族館とか、新潟のマリンピアとか、下関の水族館、鹿児島の水族館、だいたい地元に関係ないアシカとかイルカとかオットセイとか、トドとかホッキョクグマとかそういう生物でも、子どもたちに人気だからということで展示しているんですね。でも、静岡市の水族館は駿河湾に関係ない展示は基本的にしないと、クジラやイルカも今は展示するような時代じゃないだろうと、それはそれで一つの見識だとは思いますが、それで、どうして他の全国の水族館並みの集客を図れるという、ましてや民間の、企画立案の効果で入館者数は 10%増しにできるという計算まで出ているそうですけれども、どうして、そんな楽観的な数字がはじき出せるのか、これは市の税金に関わることですので、ご説明をお願いします。

◆市長

これは、これから事業者と議論に議論を重ねていき、まだ事業者決まっていますので、これから決まったら私の思いも伝える中で、とにかくPRをして、記者ご指摘の学術施設、教育施設と、あるいは観光施設との両立を図っていこうと、これは歴史博物館だって同じ思いでありますけれども、それを目指してまいりたいと、もうしばらく推移を見守っていただければなと思います。

◆NHK

どうして展示内容が決まっていないのに他の全国の、集客にも力を入れている水族館と同じような、同じというかそれ以上の集客が見込めるとはじけるのでしょうか。

◆市長

他の記者の皆さん等も質問があるでしょうから、これだけに集中するわけにはいきません。これ、海洋文化拠点の、今日は誰かいらっしゃってないですか、同席してないですか、また、これは後でまた、議論させてください。

◆NHK

市長のお考え、市長の説明として伺いたいんです。

◆市長

市長の説明は先ほど申し上げたとおりでありますので、海洋文化推進本部、あるいは公民連携協議会としては、コンセプトとしてはこういう施設を造りたいというような提案をもらっていますので、その下で作った計画だというふうに受け止めております。

◆NHK

仮に 46 万人なり 70 万人規模の集客が見込めるのであれば、駐車場が今ないわけです

けれども、その整備計画も示されてないのに、どうしてこの箱だけ走れるのでしょうか。

◆市長

これからの議論です、これはね。日の出地区、またドリプラさんも展開しているわけですし、いろいろなことが想定されていくので、今この全体を行政で決めるという時期ではないということを、ぜひご理解いただきたいと思います。

◆NHK

じゃ、駐車場の見通しは今示す必要ないというお考えですか。

◆市長

いやいや、そんなことは申し上げておりません。これからの議論であります。今日いただいた意見は、本当に明日からパブコメが始まる、パブコメの1つの記者のご意見として承って、これ、反映をさせていきたいなというふうに思っています。

◆NHK

もう1つあります。先日、商工会議所の懇談会でこの話題をしましたところ、地元の大手物流企業さん、お察しかと思いますけれども、その副社長さんから、展示内容はもう決まっているものはあるんだと、ただ、私は守秘義務があるから言えないということをおっしゃられました。これ、特定の企業と何か水面下で話して展示内容を決めて、守秘義務を課しているという状況が現実にあるのでしょうか。

◆市長

それは知りません。副社長がどういういきさつで、そういう発言をしたのか。

◆NHK

実際に展示内容を内々に特定の企業との間で決めていくという事実はあるんですか。

◆市長

我々はコンセプトを、これから仕様書を、こういう、さっき私が申し上げた志の高い施設を造ってほしいという仕様書をこれから提案して、その結果、それに応じる企業グループを審査させていただくというプロセスの途中にあるということ、ぜひ、ご理解いただきたいと思います。

◆NHK

何も決まっているものはないということですね。現時点では。

◆市長

何も、さっきは駐車場の計画とか、展示内容とか決めておくべきではないか、というご質問だと承ったのですが、今度は何も決まってないと、そうじゃないんです、いいですか、コンセプト、ひとつの考え方、こういう施設を目指してほしいということ、我々、責任を持って行政の責任としてお伝えをしたと、先ほどの4次総も同じであります。スケルトンといいますか骨格、たたき台として、こういうふうに7つの柱で継承と進化をさせて3次総の次の計画を作りたい、その上で市民の皆さん、パブリックコメントを募るわけですね。同じプロセスですので、ぜひ、そこら辺のところは、これ、基本的な骨格ですので、ぜひご理解いただきたいと思います。

◆NHK

疑問は残りますが、質問として今日は結構です。ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょう。静岡新聞さんお願いいたします。

◆静岡新聞

静岡新聞です。この4次総の骨子案ですけれども、3次総を継承進化させるというところがポイントだというふうなことですが、3次総で人口目標、2025年に70万人を維持すると、今、国勢調査でも70万人割り込んでしまっている現状ですけれども、今回の骨子案に人口目標というのが盛り込まれていないと思うんですけれども、その辺り、市長のお考えをお聞かせください。

◆市長

おっしゃるとおりですね。3次総の検証をする中で、定住人口の70万人維持というのはそれが難しいという認識を持つに至りました、持たざるを得ませんでした。なので、しかしながら、人口活力の維持はしなければいけない。定住人口の目標値こそ4次総の中には盛り込みませんが、関係人口あるいは交流人口の活力維持策と相まって、それぞれ交流人口、例えば何年にはこのぐらいの観光客を静岡市に来てもらいたい、だとか、あるいはいろんなKPIですね。いわゆる数値目標を設定する中で、この定住人口と交流人口と関係人口の掛け合わせの中で活力ある静岡市を作っていくという基本的な考え方で、4次総の策定作業を進めていきたいというふうに思っています。

◆静岡新聞

そうすると定住人口の目標こそ示さないけれども、他の何か数値の指標みたいなものは

設けるということですか。

◆市長

もちろん一つ一つの事業にK P Iを設けていくつもりです。K P Iになじむ事業となじまない事業とあるということも、ここで3次総をやってみてよく分かってきました。そこがやっぱり自治体経営の難しさでもあるのですけれども、そこら辺のところは一つひとつ、これから企画局中心に考えてまいりたいなと思っています。

◆静岡新聞

仮にパブリックコメントで、やはり定住人口の目標も設けるべきだというお声が、例えば多く寄せられた場合には、改めて設ける可能性もあるのでしょうか。

◆市長

そうですね。やっぱりこれからいろんなご意見を市民の皆さんからいただいた中で、反映するべきものは反映していきたいと思っています。

◆司会

その他いかがでしょうか。読売新聞さんお願いいたします。

◆読売新聞

今の静新さんの関連なのですが、交流人口、関係人口の目標について、事業ごとに定めることは、改めて大きな目標みたいな、これについては定めないのでしょうか。

◆市長

これもまだ柔らかなままです。ですので、企画局長にもこの後、発言を譲りたいなというふうに思いますけれども、まだスケルトンを、今、骨格を示したという中で、そういう記者さんはもちろん、市民の皆さんからもいろんな意見をいただきながら、そして、数値目標のところをちゃんと定めるべきか、ということも設定していきたいというふうに思っています。なので、本当にいろんな意見、教えてください、おっしゃってください、問題提起してください。その中で、やっぱりその辺りのところを固めていきたいなというふうに思っております。もし補足があればお願いいたします。

◆企画局長

指標の設定等についてはやっていくものの、柱が立ってきた後に、どういう指標を立てるかという検討を打診してまいります。ですので、現時点ではこれを指標に立てるといった案はお示しておりません。以上です。

◆読売新聞

先日、ちょっと知り合いと話をしたら、私、昔のことはよく知らないですけど、市長が人口 70 万人以上を公約に掲げられたではないか、というふうに言っている知り合いがいたのですけれど、そういう意味では、それは達成できなかったというふうに受け止められているのでしょうか。

◆市長

それはそう、おっしゃるとおりです。

◆司会

その他いかがでしょうか。SBSさんお願いいたします。

◆SBS

SBSです。5大構想は先日の予算の予算編成のところを出された議案と、そのまま踏襲されているということで、追加のその2つの森林文化と安全・安心、特に安全・安心のまちというのは、かなり関心も高い部分だと思うのですけれども、これまでできていなかった部分なののでしょうか。これは一種あたり前の部分かなと思っていたのですけれども、ここで柱として据える理由というのは何でしょうか。

◆市長

やっぱりコロナ禍ですね。やはりコロナ禍で、我々の危機管理体制がこれで良かったのかということのを改めて突き付けられたような思いであります。その中で、安心・安全とは何かということを議論して、これを、例えば行政としては危機管理体制をさらに充実させていくのはどうかと、自然災害だけではないよね、ということも踏まえて、やっぱり市民の皆さんに頼りがいのある行政組織を作っていかなきゃいけないと、それが安心・安全感につながるというふうに思っていますし、様々に見直しをしようという、やっぱりデジタル化の勢いというものが国から全国的な課題になっていますので、安心・安全感を強めるという意味で、例えば今、双方向型の防災情報のポータルサイトを、静岡型のポータルサイトを構築しようという取組を始めておりますけれども、それも安心・安全度を高めていく取組の先進的な取組の1つだろうというふうに受け止めております。

◆SBS

具体的にはその双方向型のポータルサイトがというのが大きな目標と。

◆市長

例えば、施政方針ではそのことを紹介させていただきましたけれども、今、各局がいろいろ、そのことについて、どうやってデジタルを使って安心・安全を高めていこうかという工夫を、議論をしてくれているというふうに受け止めてください。そういう中で、より一層市民の安心感、安全だから安心とじてくれるんでしょう、安全・安心感というものを高めた静岡市でありたいな、というのを柱の1つとして加えたという、いきさつであります。

◆SBS

デジタル化のそのポータルサイト、目玉としても、とても分かりやすい部分ではあるのですがけれども、それ以外で具体的にコロナ対策、自然災害激甚化への対応として、何か描いているものってあるのでしょうか。

◆市長

いろいろあります。ただ、これはまだ議論の途中でありますので、ぜひ注視していただければなというふうに思います。

◆SBS

ありがとうございます。

◆市長

はい。

◆司会

その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは幹事社質問に移りたいと思います。テレビ静岡さん、お願いいたします。

◆テレビ静岡

幹事社、テレビ静岡です。幹事社質問2問あります。1問目、まん延防止措置の延長区間の半分が過ぎました。市長はこれまでの措置の効果をどう評価していますか。また来月6日期限の措置を、県が要請する、主体的には県ですけれども、延長は解除すべき、どちらだとお考えでしょうか。

◆市長

大きく2つ質問をいただきました。まん延防止等重点措置の延長を受け、飲食店への時短営業の要請が継続された他、本市においても3回目のワクチン接種や感染予防対策

の周知徹底などに積極的に取り組んできました。現在、市内の新規感染者数は概ね300人前後で推移しております。昨日は100人台まで減ってきましたね。とはいえ実効再生産指数、つまり1人の感染者が平均して何人にうつすかを示す指標は、高い時は4を超えていましたが、現在は1を切るという状況が多くなっていることから、市民の皆さんの協力により、感染防止対策としては一定の効果があったと考えております。また、措置の延長についてですが、現在も新規感染者数が依然として多いこと、感染者数の上下の動きが激しいことから、もう少し状況を見定めた上で判断する必要があるというふうに考えています。

◆テレビ静岡

具体的にもう少しというのは数日なのか。1週間経つと6日になっちゃいますけれども。

◆市長

まん防の期間が3月6日までですので、その辺りまで。これは所長が専門的な見地から毎日毎日分析をしてくれていますので、もし補足があればお願いをしたいと思いますけれども、しかし、一方、先ほどイベントの開催回復の支援もしていく、経済対策もしていくということを申し上げましたように、私は今、本当に辛抱していると思うのですね。我慢を強いられている生活をしていると思います。ですから、やはり4月、桜の咲く頃には静岡まつり、やりたいじゃないですか。それに向けて、とにかく頑張ろう、もう少し辛抱していこう、ということと呼び掛けさせていただきたいと思います。所長。

◆保健所長

保健所長でございます。あとどれぐらい様子見ればいいのかという話のご質問だったと思いますけれども、なかなかこの辺りですね、ここ前回は感染状況の話した時に、どうしても日々の数値に一喜一憂しがちなのですが、だいたい、その1週間、2週間ぐらいを単位として見ながらいかなければいけない、曜日ごとに医療機関の開設時間が違う、休みが入るということで、その辺りの数値が非常に影響を受けてしまうということがあります。特に、ここ先週、先々週と連休などがありましたので、この辺りの数値が少し読みにくくなっているということがあります。そういった意味では、やはり、もう数週間程度は見なければいけない、その上で、あとで振り返ってみると、あの時がピークだったのかなということが分かる、だいたいそういう形で感染症の流行というのは評価をしなければいけないということで考えています。

ただ、一つ前回は注意いたしましたけれど、これから花粉症の時期になりますので、こういったものが、また拡大因子になってきます。そういうこともありますので、市民の皆様方には、あの時もお話ししましたように、できるだけ、ここ2、3日、花粉の

飛び方も少し多くなってきていますので、そういったことの対策をした上で感染状況の変化を見ながら、ここ数週間程度は様子を見ていきたいということで考えております。いずれにいたしましても、今後、多少そういう傾向があっても、気を緩めずに感染症対策を、引き続き市民の皆様方にはお願いしたいと考えています。

◆テレビ静岡

分かりました。続いて2問目です。ワクチンの小児接種の予約が今日から市内で開始されました。子どもたちの感染防止効果に期待の声がある一方、他地域では副反応などの不安から接種を躊躇、様子見する保護者も見受けられます。静岡市は小児接種についても、「待つよりも打つ」という姿勢でしょうか。改めて考えを聞かせてください。

◆市長

ご承知のことだと思いますが、小児接種は接種対象者や保護者に接種への協力を求める、いわゆる努力義務は課されておられません。また、保護者の同意が必要なことから、接種を円滑に進めるには保護者の方のご理解ご協力が不可欠となります。なお、小児用のワクチンは国が有効性、安全性を確認しており、重症化リスクが高いとされる基礎疾患のある児童への接種は特に推奨されております。このため、基礎疾患をお持ちで接種を迷われる場合は、かかりつけのお医者さんや主治医の先生にご相談をいただき、接種をご検討いただきたいと考えております。また健康なお子さんへの接種は感染症予防効果や副反応のリスクを比較し、ご家庭でよく話し合っていた上でご判断をお願いいたします。なお、まずは重症化リスクのある高齢な方のご家庭で接種を済まされていない方がいらっしゃるようでしたら、これは「待つよりも打つ」、ぜひ、接種をご検討いただくようお願いをいたします。

◆司会

それではただいまの幹事社質問に関連したご質問があればお受けをしたいと思います。いかがでしょうか。NHKさんお願いいたします。

◆NHK

NHKです。もう一度確認ですが、市長、以前、知事からも発言あったのですけれども、まん延防止、飲食店がクラスター多発の原因ではないということで、まん延防止による時短要請というのが、意味があるのかということ、現に全国的には愛媛県知事、奈良県知事、宮城県知事、そういう考えからまん延防止を要請していないという状況があります。市長もどちらかということ、飲食店を応援したいというお気持ち強いのではないかなと思いますが、それでも、まん延防止、現実に効果があるというふうに評価しているという意味だと、先ほどの発言、捉えてよろしいでしょうか。

◆市長

はい。

◆NHK

特に飲食店への時短要請は対策としてかみ合っていないのじゃないか、というようなご意見は。

◆市長

難しいですね。国の法律の仕立てがこういうことになっていますので、それに従って我々は、市もこれに、県と連携して取り組んでおりますけれども、これは、ずいぶん、デルタ株の去年と、オミクロンの現在では違っているようですし、これはまた検証が必要なのかな、というふうに思っていますが、一定の効果はあったというふうに判断しています。

◆NHK

分かりました。2点目の小児のワクチン接種については、一応確認ですけど、健康なお子さんについては「待つよりも打つ」という、そんなに前のめりにならなくても、ゆっくり考えて話し合ってからでいいというお考えなのか、もう少し。

◆市長

先ほど申し上げたとおり家族とよく話し合っていたきたいということに尽きると思います。私どもとすると保護者の皆さんに接種の判断材料を提供していきたいと思えます。SNSの方を引張ると、いろんな考え方があって悩まれると思うんですね。ですから、行政として責任を持って情報はきちっと提供して、それを判断材料にして決めていただければなというふうに思います。

◆NHK

リスクがある基礎疾患のある児童や高齢者が優先だろうという、優先順位という観点でのお話ですね。

◆市長

そういうことですね。何かこの質問については何か。今、統括監が後ろで大きくなっているのが、少し、その辺りも補足があればお願いいたします。

◆保健所統括監

保健所統括監松田と申します。小児の接種に関しましては国のほうで、先ほど市長が申し上げたとおり有効性や安全性というのは確認はされているというところがありますが、オミクロン株に対する検証が十分ではないということで、努力義務は課されていないということです。その中でも、特に基礎疾患のある児童が感染しますと重症化するリスクが高いということがありますので、まずは基礎疾患をお持ちの方が、かかりつけ医、先生に相談していただいて接種をご検討いただくということで、あと、家庭内で、もし未接種の高齢者、あるいは基礎疾患をお持ちの方がいらっしゃれば、まず、その方たちは大人用のワクチンを接種していただきたいという趣旨でございます。

◆司会

それではその他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。では幹事社以外のご質問をお受けしたいと思えます。その他のご質問があればお願いいたします。中日新聞さん、お願いします。

◆中日新聞

中日新聞です。今月から新しく始まった静岡大学将来構想推進会議、その話で、行政、静岡市や経済界から、「リカレント教育を充実してほしい」と大学に要望がありまして、大学のほうとしては、「であれば、アクセスのいい場所を市に用意してほしい」のようなことを、「アクセスのいい場所を市に用意してほしい」といった答えを森田副学長がされていまして、具体的な候補として、どのような場所が提供できそうでしょうか、市としては。

◆市長

私は直接森田副学長からそういう提言と申しますか、聞いておりませんので、このところは承知をいたしませんけれども、やはり我々は静大のほうの再編の話には全面的に協力をしていきたいというふうに思っております。ですので、またそういうお話を私のところに正式にいただいたら、考えていきたいというふうに思っています。

◆中日新聞

これとは関係なくですけど、一般論として、アクセスのいい場所で静岡市が提供できそうな場所って、どんな所があるんでしょうか。

◆市長

いくつかあろうかと思えます。それは記者もお話を、何かいい所があったら推薦してください。とにかくやっぱり駅の近くがいいのだろうな、というふうに思っています。

安東地区の、今の城北公園の所に静大があったんですね。学生街が形成されていた。それこそ経済成長の郊外移転の中で大谷に行ったという、これは歴史のないきさつがあったと思います。でも、やっぱり東京の大学もそうですし、都心回帰の動きがありますのでね。大谷のキャンパスは大谷のキャンパスとして、これからも存続するのだけれども、大学もいろんなことを、これから学生募集計画のために考えているか、というふうに思いますので、その辺り学長ともきちっと私、気脈を通じて支援できるところは支援していきたいなというふうに思っています。

◆司会

その他いかがでしょうか。SBSさんお願いします。

◆SBS

SBSです。連日テレビでも報道されているようにウクライナ情勢がかなり緊迫しております。ウクライナへのロシアの軍事侵攻、本格軍事侵攻から数日経ちましたが、市長としての受け止めを教えてください。

◆市長

残念ですね。どうして、こういうことになってしまったのか、詳細は、私は承知していませんけれども、私たちは、静岡市はSDGs、未来都市としてこの17の国際目標に向けてのまちづくりを進めております。今回のロシアの決定というのは、そこと真逆の立場にある行動だというふうに受け止めております。

◆SBS

静岡市として何か発信していくこと、難しい部分もありますけれども、できることって何か、市長の中で考えありますでしょうか。

◆市長

議論はしているところであります。自治体、それもプーチン大統領はここに来たことありませんので、どのぐらい承知か分かりませんがね。ただ、私たちは平成17年に平和都市宣言をしている都市ですので、そんな立場から何かできることがあったらやっぱりアピールをしていきたいな、いうふうに思いますし、とにかく早く停戦をしてほしい、犠牲者を増やしてほしくない、民間人のね、そう願うばかりです。

◆SBS

県内の経済関係者からは県内経済への、市内経済への影響も懸念する声がありますが、その点はいかがでしょう。

◆市長

おっしゃるとおりです。それは商工会議所の会頭とも、その辺りのところを議論させていただき、会頭も答えていましたけれども、やっぱり、ウクライナに進出している自動車関連の企業もございますので、そのビジネスが、支障が出てくるのだろう、ということが懸念をしております。

◆SBS

そこへの何かサポートだったり、対応だったりはあること、ありますか。

◆市長

これからでしょう。どのぐらいまで続くのかにもよりますしね。停戦合意のための話し合いはとにかくするのだというところ、今日の朝刊の1面にも載っていましたが、事態の推移を見守っていこうというふうに思っています。

◆SBS

ありがとうございます。もう1点、別件で、昨日、接種券なし接種が実施されました。で、3月2日も控えているところですが、予約が終了するほど好評というか、積極的に打とうという方がいるようです。これの効果というのをどのように感じているか、そして、今後の展望を考えているものがあれば教えてください。

◆市長

これは統括監に、後で補足してもらおうというふうに思っていますけれど、2日間限定ですけれども、やって良かったなというふうに思っております。また、報道をしてくださったおかげで、昨日、報道してからも、テレビで見たからとにかく受けたい、なんていう、そんな駆け込みの市民の皆さんもいらっしゃるというふうにも思います。そういう意味では、やって良かったなというふうに思っています。とにかく前倒しの中で、静岡市がどんなことを、医師会や県や、いろんな関係諸機関と連携してできるのかということは全力で議論し、そしてやることは全部やっていきたいなというふうに思っています。どうぞ、政府と会ったこともちょっと高らかに。

◆保健所統括監

保健所統括監松田と申します。今回の接種券なし接種につきましては、2月に本来は高齢者の接種券を、もっと前倒しをできれば良かったんですが、これが非常に難しくてですね、実際、今週と来週にわたって、7万5,000通ずつ、約15万通、接種券を送付させていただきますので、その間に、どうしても、やっぱり早く打ちたいというニーズ

がでございます。それに対応するために、今回、接種券なし接種ということで、期間を限定して、ご用意させていただきました。これにつきましては、接種を、まず急いで打たれるという希望のある市民の方のニーズに、一定程度応えられたというふうに思っております。今後は、この15万通に加えて、その翌週以降も約3万通ずつ、毎週送っていきますので、しっかりと3月以降につきましては、6カ月経過すればお手元にすぐに接種券が届く、そして、予約できて接種ができると、そういうような態勢を作っていきたいと思っております。以上です。

◆SBS

接種券なし接種は、いったんは終了ということになりますか。

◆保健所統括監

そうですね。これにつきましては先ほど申し上げましたとおり、臨時的な措置でございますので、この後は接種券が最初に届きますから、届いた方は、すぐに予約ができる状況になりますので、そういった通常の予約、それから接種の態勢を整えていきたいと思っております。

◆市長

実際どんなふうにこれを捉えられたか知りたい、また教えてほしいのですけれども、かなり、私、強い指示で、接種券なし接種をやってくれ。というふうに指示をした中で、期間限定だけれども、やってくれたということを、私はとても心強く思っています。

◆司会

それでは45分を過ぎておりますので、本日の会見はここまでとさせていただきたいと思っております。次回は3月15日、午前11時からの予定となります。